

様式B

令和4年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立和佐幼稚園

教育目標 「豊かな心を持ち、明るく元気な和佐っ子を育てる」

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況	
自分の力を発揮して、遊びを楽しみ子供を育てる	子供の主体的な活動が生まれる環境を探る	豊かな体験を通して	豊かな体験や経験ができるように遊びの時間を確保する。	感染症対策を行いながら、行事等を含め、様々な体験ができるように、取り組んできた。安全面にも特に留意しながら、遊びの時間に職員の立つ位置にも互いに気をつけるように心がけた。
			子供達の興味や関心の幅が広がるように、遊具が用具を用意する。	子供の遊びの動線を見ながら、用具を子供が自由に取り出せるような工夫をした。また、遊具の適切な量を考え、整理した。
			日頃の子供の姿を話し合い、教育価値のある環境へ見直す。	園の環境を再度見直し、子供が興味をもてる環境を考えた。特に畑は、日々成長が目でわかるイチゴを植えることで、子供たちの楽しみが増え、畑に出向くことが多くなった。
		身近な人との触れ合いを通して	遊びや日々の生活を通して、異年齢児の友達とかかわり、親しみをもつ。	今年度もクラスの枠を外して、朝の2時間の遊びの時間で異年齢児とのかかわりをもつように心がけた。3学期になり、ようやくクラスを行き来することも増えてきた。
			一人一人の子供の実態に応じた細やかな支援をするため、職員間で共通理解を図る。	研究保育や現職教育で、まず子供理解から環境構成を考えるようにした。ちょっとした子供の変容などは、保育後に担任に伝えるようにもしている。
			幼小の接続が円滑に進めるために、職員間の交流を図る。	今年度も、小学生とは全学年と交流をもつことができた。特に2年生とは、一年間を通して交流を図り、職員同士で話し合う機会も多くもつことができた。
		子育て支援を通して	毎日の送迎時に、園での子供の様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりしながら、子供の成長を一緒に考える。	降園時に、保護者に子供の成長を具体的に伝えた。また、園での様子を動画や写真で伝えるようにした。
			クラスだよりや園だより、ホームページ等で子供の姿を知らせ、幼稚園教育を発信する。	ホームページは、なるべく更新回数を多くすることに心がけた。またクラスだよりは、担任で工夫しながら、保護者へよりわかりやく伝える方法を考えるようにした。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

- ・保護者への情報発信の仕方が毎年の課題となっているが、園だよりやクラスだより、ホームページで子供の姿を伝えるのは好評であったが、教育的な内容等には理解がまだまだ得られていないので、これからも情報発信の仕方を考えていきたい。
- ・小学校との交流は、ほとんどの学年と交流ができた。しかし、5歳児のみの交流が多かったため、幼小交流の間いには学年でバラつきが見られた。これも情報発信の工夫が必要である。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

- ・今年もコロナ禍であったが、保護者の協力の中、園行事を実施することができたことがよかった。
- ・来年は、様々なことがコロナ禍前のように戻っていくと思われるが、行事一つを取っても子供に必要なものだけを精選し、計画していきたいと思う。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- ・子供たちの興味・関心に合わせて、遊びこめる環境であり、子供たちが遊びこんだ形跡が目に見え、しかし、アンケート結果から見ても、一部の保護者にしか理解してもらえていないので、もっと発信した方がよい。
- ・来年度以降も、これまでと変わらず、子供たち一人一人に寄り添い、自分の力を発揮できる教育、主体的に学べる環境をずっと大切にしていきたい。